

さくら第456号

平成29年12月

さくら

発行所 さくらそろばん
発行者 平瀬重雄
春江町境 17-7:TEL51-1337
hirase@mx2.fctv.ne.jp

とまかく
具体的に動いて
具体的に動けば
具体的な答えが
出るから
みちたか

『制限時間と合格点』

珠算検定試験には制限時間があり、その時間内に計算し答を書きます。合格基準というのがあり、それを満たせば誰もが合格します。

珠算能力検定試験のなかで段位は珠算種目がかけ算・わり算・みとり算と3種目ありそれぞれ10分間です。1級～6級までは3種目が1枚のプリントに印刷されており、どの種目から始めてもいいので、平均10分間より速くできる種目があればその分にながてな問題に取り組めるので助かります。

でも、30分間やすまずに計算し答を書かねばならないので、集中力をきらさず最後までやりぬく力が必要です。合格するには1級から3級までは240点以上で、4級～6級は210点以上あれば受かります。

7級～10級までは制限時間3種目20分間であり、時間内に答を書けばよいのです。

全珠連検定試験は1級から3級までは、かけ算・わり算・みとり算・伝票算・暗算・応用計算があり、段位は開法という種目が増えます。

制限時間は、みとり暗算は3分間、応用計算は10分ですが、それ以外は7分間ずつ種目ごとに計時します。級位は150点満点で段位は300点満点です。級位合格点は各100点以上です。なお、かけ算・わり算・みとり算は必須ですが残りの種目は1種目だけが採点から外される選択制度になっており、苦手種目をカバーできる利点があります。

学校生活においても、校時表がありそれに

従って授業が進められます。私はこの時間がきらいだから45分の授業時間を40分にしてほしい、好きだから10分のばして55分とはなりません。だから決められたルールというものを守らねばなりません。

ところで、会社などで仕事をするときには「納期・のうき」というものがあります。この品物を作ってほしいとたのまれた時には相手といっしょに決めた納期内に作り、わたさねばなりません。もし、遅れるようなことになれば相手に損害をあたえてしまいますから、かならず約束の期間(時間)を守らねばなりません。

もう一つ大事なことがあります。約束の期日までにわたしても、もしその中味、品質が悪ければ相手は満足しませんし、不良品として返品されるかも知れません。

さて、この納期というものは制限時間に当てはまります。品質は合格基準になります。時間内に計算し答を書いてもまちがっては点数になりません。

世の中のできごとには「納期」があり、「品質基準」があります。制限時間という約束の期間内に合格点という品質内容を満たさねばなりません。

相手から何かをたのまれたら、約束の日時までに完成させて渡さねばなりません。自分の都合で時間がなかったから、やろうと思ったができなかったというわけにはいきません。そんなことをすれば信用を無くしてしまいます。

試験を受けるためには、試験日まで合格点をとるように、それもよい点数になるように日々の練習を考えて工夫することが大事で、少しでも速く計算し、ミスをふせぐにはどのような気をつけるかいつも考えましょう。制限時間内に、よゆうをもって計算が終わるためには、練習を重ねるしか方法がありません。大人の社会で必要とされる事柄を、皆さんはそろばん学習のなかで体験しています。

あと少しだけ、頑張りぬこうという気持ちがよい結果をもたらします。実行あるのみ。